

令和3年度認定

【計画名: 小樽芸術村を中核とした小樽運河地区の文化観光推進拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪客の満足度(%)	72	94	131%	75	96	128%	78		81		84	
総来訪者数(千人)	61	101	166%	150	213	142%	310		380		450	
総来訪者数(外国人)(人)	500	1,170	234%	7,500	9,547	127%	24,000		45,600		67,500	
施設内での消費額(円/人)	1,300	1,147	88%	1,400	1,392	99%	1,500		1,600		1,700	
来訪者のリピート率(%)	12	16	133%	14	11	79%	16		18		20	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いたこと、2022年4月に新たに西洋美術館がオープンしたことで既存3館への来訪者も増えたことから、来訪者数及び外国人来訪者数は目標の数値を大幅に上回った。 客単価は、目標をわずかに下回った。2月迄は目標をわずかに上回っていたが、3月に入り客単価が下がった。これは、春休みに入って学生や子供が増えたことや、在庫整理のため一部図録の単価を半額以下に引き下げたことが影響していると考えられる。 西洋美術館が新たにオープンしたことで、初めての来訪者が増加し、リピート率は目標を下回る結果となった。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標は概ね達成することができた。
--

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
1-①	文化資源に関する解説の強化事業	12月28日からデータベース公開開始。作品解説原稿の作成とデータベースの入力作業を継続して実施中	作品解説原稿の作成とデータベースの入力作業を実施			0.3百万円
1-②	近隣の文化資源保存活用施設との連携強化事業	【補助事業外】市立小樽美術館との連携企画展、小樽市総合博物館との資料の貸借等を実施	【補助事業外】市立小樽美術館との連携企画展、小樽市総合博物館との資料の貸借等を実施			
1-③	旧三井銀行小樽支店での夜間コンサート事業	—	【補助事業外】市内の団体と連携したコンサートやセミナーを実施			
2-①	スタンドグラス美術館でのARによる体験型コンテンツ制作事業	【補助事業外】来館者の端末でARコンテンツを視聴できるシステムの構築中。1月中に運用開始を見込んでいたが不具合が多発し運用開始は出来ず	【補助事業外】9月よりARコンテンツ(日・英)を稼働。利用促進を図るための掲示物を追加			1.0百万円
2-②	旧三井銀行小樽支店での3D-VRによる体験型コンテンツ制作事業	—	旧三井銀行小樽支店内の外観及び内部空間を3D映像化しwebで公開			
2-⑤	インタープリターツアーによる文化資源の理解増進と施設周遊促進事業	—	【補助事業外】インタープリターによるガイドツアーを3回実施			
2-⑥	小樽及び後志地方の文化資源を中心とした研修会事業	—	地域住民対象の連続講座を5回、コンシェルジュなどを対象とした研修会を4回開催			
3-①	夜間開館事業	—	2022年7月23日～10月8日の土曜(12日間)、閉館時間を20:00まで延長			0.3百万円
3-②	オンライン・チケット販売事業	—	【補助事業外】2022年3月よりオンラインチケットを販売開始			
4-①	和菓子作り等のワークショップ及び関連事業	—	小樽の老舗和菓子店「新倉屋」と連携してワークショップを開催			0.1百万円
4-②	小樽運河周辺地区の商業観光施設と連携した商品開発事業	—	「小樽和菓子工房游菓」、 「UNGA↑」と連携し、オリジナル菓子と掛け紙を開発			
4-③	作家作品展示販売促進事業	新規作家1名の作品展示・販売を開始	【補助事業外】旧三井銀行小樽支店に加え、似島美術館、スタンドグラス美術館での販売も開始			

5-①	所蔵の文化資源を活用したニセコでのプロモーション展事業	浮世絵作品のスキャニング作業とデジタルリマスターデータ作成作業を実施	浮世絵等50作品のスキャニング作業とデジタルリマスターデータ作成作業を実施したほか、レプリカの展示販売を実施			22百万円
5-②	ニセコ等隣接地域での広報強化事業	—	【補助事業外】ニセコプロモーションボード(NPB)より広報への協力を得た			
5-③	地域宿泊施設との連携事業	—	【補助事業外】近隣ホテルに浮世絵レプリカを展示し芸術村への誘客や収蔵する文化資源の周知に努めた			—
6-①	展示の魅力を増進するための施設改修事業	—	似鳥美術館3階展示室に可動式の展示ケース4基を設置			6.9百万円
各年度ごとの実績額→		11.1百万円	19.5百万円			30.6百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業1-①は、外部の研究者の協力も得て目標である400点を上回る422点のデータを公開することができた。 ・事業2-②のVRは予定より導入が遅れ目標PV数は達成できなかったが、より多くの方に文化財の魅力や歴史的な背景への理解を促すことができるようになった。 ・事業2-⑥の講演会や研修会はいずれも高評価を得たが、周知不足により参加者数の目標270人に対して実績が221人と目標に達しなかった。 ・事業3-①は来館者の利便性を高めた点で好評を得た。来訪者数は目標1200人に対して実績が1230人。周知徹底により大幅な目標達成を目指す。 ・事業4-①のワークショップは大変好評を得た。コロナ禍の影響もあり、小樽、札幌など近郊の参加者が大多数を占めている点は課題。 ・事業4-②で制作したどらやきは小樽芸術村初のオリジナル菓子として喜ばれたがイベント時の販売にとどまり、客単価を押し上げることはできなかった。 ・事業5-①では、浮世絵等50作品の高精細データとレプリカの制作は計画通り実施。販売点数は目標10枚に対して実績1枚と目標を達成することができなかった。 ・事業6-①の展示ケースは設計変更等のため予定よりも遅れて3月初旬に完成、中旬より展示を開始した。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業概ね予定通りに進んでおり、来訪者アンケートの結果からも満足度向上に繋がっていると評価できる。 ・事業2-②と6-①は年度末に完了したため、効果の検証は次年度以降となる。 ・全体に周知不足が課題である。
--

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	小樽芸術村
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		外部の研究者の協力も得て収蔵作品の魅力伝える解説を執筆、データベースに掲載してこれまで422件を公開したほか、一部をパネルにして展示室に掲示した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		スタンドグラス美術館でのARコンテンツ(日・英)を公開し、収蔵作品に関して、より詳細でわかりやすい解説を提供した。また、利用を促進するため一部作品にパネルを増設した。 旧三井銀行小樽支店では、360度VRの制作と公開を実施したほか、観光庁の補助事業として旧三井銀行小樽支店のARコンテンツの制作と公開を行い、建造物の魅力や歴史的価値の解説を充実させた。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		館内サインやキャプションの一部に英語、韓国語、中国語表記を追加したほか、利用案内パンフレットの英語版を制作、配布した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		小樽市(博物館等を含む)、小樽観光協会、堺町通り商店街とは、事業実施への協力や連携事業の開催等、個別の連絡・協力体制を構築している。ニセコプロモーションボードの助言や広報への協力を得ながら、ニセコエリアの観光事業者や通訳案内士らを対象とした研修会を開催するなど、連携体制を構築しつつある。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		来館者及び事業参加者へのアンケートを実施し、整理、分析を行っている。また、小樽市、小樽観光協会、ニセコプロモーションボードより観光動向に関するデータや分析結果の提供を受けた。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		事業は認定計画に基づいて毎月進捗状況を確認しながら実施し、KPI、PDCAサイクルを確立するように留意している。

⑥観光関係者(DMOなど)からの評価

評価者	評価内容
小樽市産業港湾部観光振興室	本事業の実施により、小樽観光の拠点施設として小樽芸術村の機能強化が図られたことで、本市の観光の魅力向上に繋がった。具体的には、各種コンテンツの開発により、観光客が小樽の魅力を深く知ることができるようになったほか、夜間開館により夜の魅力の創出に寄与するなど、各種取組による効果があった。また、事業実施にあたって様々な関係者・関係団体と連携して地域一体となって取組を推進したことで、地域全体の魅力の磨き上げに繋がった。 コロナ禍の影響で定量的な効果の測定は困難であるものの、新たに「西洋美術館」のオープンや「旧三井銀行小樽支店」の重要文化財指定などにより、観光客の誘客に大きな効果を果たした。

⑦今後の改善の方向性

- ・全体に周知不足が課題となっている。人員の補充や、開館以来の懸案事項であるSNSの導入など広報の徹底をはかることで、より多くの方に文化資源の魅力を伝える機会を創出するとともに、収益により自走できるよう努める。
- ・ARやVRについてアンケートを実施して事業の効果や問題点を把握して改善を行うとともに、今後制作予定のコンテンツに反映させる。
- ・これまで、文化観光の推進に関する多様な関係者とは、個別に連絡・協力体制を構築してきたが、今後は協議会等の組成を行い、事業への助言、協力、評価等を実施できる体制を構築していきたい。
- ・事業5-①では、レプリカを二セコエリアや小樽市内の観光施設、東京のギャラリー等で展示し、収蔵する文化資源の認知度を高め、小樽への来訪の動機づけとするとともに、販売して文化資源の磨き上げに再投資する。